

令和 4 年度 清原南小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重を基盤に，知・徳・体の調和のとれたたくましい児童の育成を目指し，日本の伝統や文化を大切に，平和な国家の形成者として，21世紀を担う心身ともに健康で心豊かな子供を育成する。

たくましい子 元気に運動し，健康でたくましい心と体をつくる。

思いやりのある子 ルールやマナーを守り，協力して生活する。

よく学ぶ子 基礎・基本を身に付け，進んで学習する。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

恵まれた自然環境と，146年の長い歴史と伝統を有する本校に勤務することに誇りと責任をもち，子供への愛と同僚との和をもって児童・保護者・地域の方々と共に歩み，自らの資質・能力を高めるとともに自己変革に努め，教育目標達成のために全力を尽くす。

また，先人に感謝しつつ，母校への誇りと自己の尊厳を高めるような教育活動を展開し，持続可能な社会の創り手となる子供たちが「未来を生き抜く人間力」を身に付けるため，知・徳・体のバランスのとれた力の育成に取り組む。そのために，児童・教職員・保護者・地域が連携し，多様な活動を通して地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 地域に開かれた地域とともにある学校づくりの推進
- (2) ○成長し続ける基盤となる知・徳・体のバランスのとれた力の育成
- (3) ○新しい時代を生きるために必要な資質・能力の育成
- (4) 多様な教育的ニーズに対応した指導・支援の充実
- (5) 学び続ける教職員としての資質・能力とチーム力の向上
- (6) 業務の効率化と勤務時間を意識した働き方改革の推進

〔清原地域学校園教育ビジョン〕

自己を見つめ，自己のよさを生かした夢の実現に向けて，主体的に取り組む児童生徒の育成 2nd stage

～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法，教育基本法，学校教育法，同施行規則，新小学校学習指導要領等の法令並びに栃木県教育委員会の方針「とちぎ教育振興ビジョン」，宇都宮市教育委員会の「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」「令和4年度指導の重点」を踏まえて，公教育の立場を堅持し本校の教育目標達成のため，調和と統一ある教育課程を編成する。
- (2) 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え，学校の教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で，その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列して，それぞれが充実した調和と統一ある教育課程を編成する。
- (3) 「うつのみや学校マネジメントシステム」の結果を受け，本年度の学校教育目標・学校経営の方針を踏まえて，実態に応じた指導が計画的に行われるようにし，PDCAサイクルを確立して改善を図る。
- (4) 「地域とともにある学校づくり」を推進するため，地域協議会との連携により，地域の特性や願いを基に児童に必要な資質・能力を明確にし，地域の人的・物的資源を活用して，社会に開かれた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

- ・教職員評価制度を活用して，個人及びチームのスキルアップを図る中で，学校運営への積極的な参画を目指す。
- 清原地区地域学校園構想と小中一貫教育の取組に基づき，小中9年間を見通した視点で効果的な取組や活動を検討し，授業改善並びに共通実践を行う。
- ・教職員のカリキュラムマネジメントに対する意識の高揚を図り，児童に求められる資質・能力を教科等横断的な視点に立って育成できるよう，教育活動の質の向上に努める。
- ・学校 HP，各種便り等による情報発信を積極的に実施して，保護者や地域との連携を図り信頼関係の構築に努める。
- ・ICT 機器の活用，OJT の活性化，協働体制の推進並びに外部人材の活用によって業務の効率化を図る。
- ・出退勤時刻管理システムによる勤務時間の自己管理や最終退勤時刻の設定，リフレッシュデーの設定，休暇等を取得しやすい勤務状況の構築を図り，勤務時間を意識した働き方改革を推進する。

【学 習 指 導】

- ・教材や ICT 機器を効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的な学び」の実現に向けた授業展開・改善を図る。
 - ・「主体的・対話的な学び」を実現するために、コミュニケーション能力の育成を図る。
 - ・授業では、学習課題や解決への見通しをはっきりもたせるとともに、各教科等の見方・考え方を働かせて深い理解を促すなど、課題解決にじっくり取り組めるよう、発問や学習活動を工夫する。
 - ・教師のコーディネート力の向上を図り、安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学級集団の育成に努めるとともに、協働して課題解決に取り組む態度を養う。
 - ・授業の終末は、本時の目標やめあてに焦点化した振り返りを言語により行わせる。また、AI ドリル等を計画的に活用し、個に応じた基礎的・基本的知識・技能の定着を図る。
 - ・図書や資料を効果的に活用し、必要な情報を得て考えを深めたり、知的好奇心を高めたりする児童の育成に努める。
 - ・SDGs や郷土学習、人権等の現代的な諸課題に対応していくため、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成に努める。
- 「清原っ子家庭学習の約束」を通して、保護者の家庭学習の啓発を図るとともに、1人1台端末を活用しながら、家庭学習の取組を奨励し、確実な習慣化を図る。
- ・積極的な授業公開を通して児童の学習上の課題解決の手口を考えたり、効果的な取組を共有したりし、資質・能力の向上と学び合う教師集団の育成を図る。

【児 童 生 徒 指 導】

- ・確かな児童理解に基づく、教師と児童の信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育成し、児童一人一人が安心して自分の力を発揮できる学級経営に取り組む。
 - ・いじめや不登校を生み出さないよう、規範意識や思いやりの心を育成し、すべての児童にとって居がいのある学級作りに努める。また、悩みやストレスを抱えたときに、相談して助けを求める援助希求能力を高める。
 - ・多様な教育的ニーズに対応するために、特性のある児童の指導・支援については、保護者と児童理解、指導の在り方について共通理解を図るとともに教育支援委員会やSC、関係諸機関と連携して対応する。
 - ・児童が活躍できる場を積極的に設定して、一人一人のよさや努力を認め励ますことにより児童の自己有用感並びに自己肯定感を高める。
 - ・児童参画型の行事運営や異学年交流活動を推進し、児童のリーダーシップ及びフォロワーシップの醸成を図る。
- 「清原地域学校園の方針・約束・一日」を基に、教職員が同一の指導を行い、児童の基本的な生活習慣の確立を図る。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・「体力向上」「保健教育」「食育」「安全教育」の有機的な関連を図り、児童が健康に生活できる心と身体の育成を目指す。
 - ・コロナ禍における運動機会の減少を踏まえ、休み時間を活用した運動機会の創出や、運動量の確保と ICT 機器を活用した授業の充実を図り、体力の向上に努める。
- 清原ミニマム・学校園体力チェックカードの結果を基に、児童が主体的に運動に取り組む授業内容を組織的に検討して実践する。
- 地域学校園統一の食育に関する取組を実践し、家庭と連携しながら望ましい食習慣の形成及び食に対する感謝の念の育成を図る。
- ・教育活動全体を通して、児童自らが危険を予測し回避するなど、自らの命を守り抜くための行動力の育成を図る。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 児童肯定的回答 90%以上	①意欲を高め、見通しをもって学習できるねらいを提示する。 ②実社会や実生活に関連し、児童が興味や関心をもてるように教材・教具を工夫する。 ③児童が単元の見通しをもてるようなワークシートの作成を工夫するとともに、次の学びへとつなげていく毎時ごとの学習の振り返りを大切にする。 ④主体的・対話的で深い学びの実現に向け、児童が考えを整理できるような思考ツールやICT機器を活用した学習形態を取り入れる等、お互いの考えを共有できるように工夫し、学び合いを進めていく。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 90.9%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・学習課題や解決への見通しがはっきりもてるめあてを提示し、児童が主体的に学習に取り組める授業を実践する。 ・児童の意欲を高めるような教材の作成や発達段階に応じた「振り返り」の時間の確保に努める。 ・一人一台パソコンを積極的に活用し、児童が互いの考えを共有できる学び合いの場を設定する。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 児童肯定的回答 85%以上	①道徳的価値を自分との関わりの中から捉えられるような道徳の授業を実践し、生命を尊重する心や人を思いやる心の涵養を図る。 ②係活動や当番活動等、周囲のために活動したり称賛したりする場を積極的に設定し、自己有用感を高める。 ③読み聞かせボランティアだけでなく、教職員による読み聞かせを行うことで、本とのふれあいをさらに充実させる。併せて、読書啓発活動やファミリー読書を推進し、豊かな心を育む。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 88.2%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・今年度と同様、いじめゼロ強調月間や人権週間の取組を充実させるとともに、道徳の授業実践を通して自己有用感を高めていけるように努める。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 児童肯定的回答 85%以上	①「<u>清原地域学校園の方針・約束・一日</u>」を教室内に掲示し、日常の指導に活用する。 ②生活当番班の担当期間を2週間とし、児童の実態に基づいて設定した「生活目標」の下、全職員の共通行動によって児童の基本的な生活習慣の確立を図る。 ③決まりやマナーを守った行動に対し、児童が互いに認め合う機会や教師の称賛を行うことによって規範意識を高める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 87.4%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・今年度と同様、「清原地域学校園の方針・約束・一日」を基に、日常の指導の充実を図っていく。 ・児童の実態に基づいて設定した「生活目標」の下、全職員の共通理解により同様の指導を行うことで、児童の基本的な生活習慣の確立を図る。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 児童肯定的回答 90%以上 地域肯定的回答 85%以上	①年間を通して児童会が主体となり「あいさつ運動」を行うが、児童同士の接触や密集をできるだけ避け、工夫した実践を展開する。 ・標語の募集 ・啓発ポスターの作成 等 ②発達段階に応じてあいさつの意義や心的効果について指導し、自発的なあいさつの啓発に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答、地域の肯定的回答とともに 94.1%であり、どちらも目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・目標を達成しているものの、実態として挨拶の声が小さかったりできていなかったりするため、引き続き発達段階に応じた挨拶の意義や効果について指導を行い、啓発に努める。

A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 児童肯定的回答 80%以上	①本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組むことができるような授業を工夫するとともに、縄跳び検定や鉄棒検定等の各種検定表を活用し、自主性を育む。 ②各種集会や帰りの会等で互いのよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設け、児童の自己肯定感を高める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は、85.8%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・今年度と同様、授業においては、めあてを明示することで見通しのもてる授業を展開するとともに、称賛できる機会を設け児童の自己肯定感を高められるようにしていく。 ・検定等においては、学年の発達段階に応じて活用することで達成感を味わえるようにする。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活をしている。」 児童肯定的回答 90%以上	①新型コロナウイルス感染症に対する正しい理解に努め、感染防止への取組を継続して実践することで習慣化を図り、新しい生活様式を定着させる。 ②自分の身は自分で守る意識を高め、適切な判断力と行動力を身に付けるため、交通安全・生活安全・災害安全について、避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施する。併せて、一斉下校と班長会議を実施し、交通ルールや安全な登校の確認を行う。また、週毎に設けた生活目標と関連を図りながら学校の決まりや安全な過ごし方を定期的に確認する場を設け、けがのない安全な生活についての意識付けを図る。 ③家庭と連携を図りながら、バランスのとれた食事や望ましい食生活の醸成を図る。 ・お弁当の日の実施 等	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は、93.6%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・今年度と同様とするが、新型コロナウイルス感染症対応においては、緊張感をもって感染防止に努めるよう日々の声掛けや生活目標等で充実を図りたい。 ・登下校時の交通安全については、交通安全教室等で身に付けた知見を用いて実践できるようにする。指導が必要な場合、早急に指導をして改善できるようにする。 ・お弁当の日やおにぎりの日など家庭と連携を図る行事を活用し、バランスのとれた食事や望ましい食生活の醸成を図る。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 児童肯定的回答 80%以上	①「清南ドリームプロジェクト」の「私の夢」は継続して掲示し、望ましい勤労観や職業観の醸成を図る。 ②キャリア・パスポートの考え方を基に、学習の様子や活動の振り返りを積み重ねることによって自己理解を深め、将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 85.8%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・今年度と同様、「私の夢」は継続して掲示し、望ましい勤労観や職業観の形成を図る。 ・全職員でキャリア・パスポートの考え方について共通理解を図り、同一歩調で取り組むことを通して、学習の様子や活動の振り返りを積み重ねて自己理解を深めたり、将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成していく。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、外国語活動の授業やA L Tとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 児童肯定的回答 90%以上	①英語によるやり取りを中心とした授業を展開することにより、児童が英語に慣れ親しみ、進んで英語を使おうとする態度を養う。 ②引き続きA L Tの活用を積極的に進め、生きた英語に触れる機会の充実を図る。 ③中学年のローマ字の授業から高学年に向けて、「書くこと」を意識した指導を継続的に取り入れていく。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答は86.6%であり、目標を3.4ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・積極的なA L Tの活用を進め、児童の生きた英語に触れる機会を充実させるとともに、一人一台パソコンを活用しながら、英語によるやり取りを中心とした活動を工夫することで、英語に慣れ親しみ、進んで英語を使おうとする態度を養う。 ・中学年のローマ字学習から「書くこと」を意識した指導を継続的に取り入れ、高学年の外国語科の学習につなげるとともに、簡単な語句や基本的な表現を積極的に書くこととする意欲を高める。

A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている。」 児童肯定的回答 80%以上	① 生活科や社会科、総合的な学習の時間の「宇都宮学」を通して、郷土への愛情と誇りの醸成に努める。 ② 各教科・領域において地域教育資源や資料等を積極的に活用し、地域のよさを理解するとともに、誇りある地域の一員としての自覚を養う。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 86.1%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・生活科や社会科、総合的な学習の時間の「宇都宮学」、道徳の地域教材を通して宇都宮のよさへの理解を深め、郷土への愛情と誇りの醸成に努める。 ・各教科・領域において地域教育資源や資料等を洗い出し、今後も積極的に継続活用ができるようにしていく。
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 75%以上	① 教職員が、授業で効果的にICT機器を活用できるよう、ICT支援員と連携した校内研修等を実施して教職員の技能向上を図り、児童がICT機器に慣れ親しみ、適切に活用できるようにしていく。 ② 各教科等の年間指導計画に図書の利用を適切に位置付けるとともに、学校図書館司書業務と連携して計画的な図書資料の充実と活用を図る。 ③ ICT機器を活用する際、情報を適切に扱うことができるよう、児童への情報モラルの指導に努めるとともに、併せて保護者への啓発を行う。 ④ 個人用PCや学校図書館を活用した学習の様子や、活動の様子を、各種たよりやホームページで積極的に発信する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 90.3%、保護者の肯定的回答は 79.8%であり、ともに目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・教職員がICT機器を活用できるよう、校内研修等を充実させて技能向上を図ることで、児童がICT機器に慣れ親しむことができるようにしていく。 ・学校図書館司書業務との連携を密に取りながら、計画的な学校図書館の活用と図書資料の充実を図る。 ・児童が情報を適切に扱うことができるよう、情報モラルを意識した指導に努めていく。
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 児童肯定的回答 85%以上	① 「昔遊び」や「七輪体験」、「田植え体験」等、学習内容や発達段階に応じて地域の高齢者とのふれあいを深める機会を設け、高齢者に対するいたわりの心や豊富な人生経験への尊敬の心を養う。 ② 相手を思いやり、時と場に応じた言葉遣いや行動がとれるよう、指導の充実に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は、88.2%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・体験の行事でお世話になった方々に感謝やいたわりの心をもてるように指導する。 ・併せて、感謝の会を通じて日ごろの感謝の気持ちを伝えられるようにする。 ・行事の縮小等も踏まえてこれまでとは違った形の体験的行事の立案を検討していく。 ・各学年教科横断的に指導を深め、思いやりの心を育み実践化に結び付けられるように指導する。
A 12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 児童肯定的回答 80%以上	① 校内研修等を通して、教職員の「持続可能な社会」への認識を高め、全教育活動において命やものを大切にする意識を育み、児童の「持続可能な社会」への実践力を養う。 ② 社会情勢を踏まえながら、学校行事や委員会活動などの学校生活において、ゴミの減少やリサイクル、緑化活動を積極的に行い「持続可能な社会」に参画しようとする態度を養う。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 86.3%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・命やものを大切にする意識を育み、児童の「持続可能な社会」への実践力を養えるよう、各教科・領域の年間指導計画に確実に位置付ける。 ・各委員会活動の取組や各学級での一般ごみや給食の際に出るごみの分別など、児童の実体験と結び付けた活動を行うことで、「持続可能な社会」に参画しようとする態度を養う。

	B 1 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値目標】 全体アンケート「私は、宿題や自主学習をすることが習慣化されている。」 「自分の子供は、宿題や自主学習をすることが習慣化されている。」 児童・保護者肯定的回答 80%以上	①予習復習の大切さを理解し、発達段階に応じて「自分で課題を設定する力」や「見通して学習する力」を身に付けられるよう、学級懇談や個人懇談、学年だより、学習だより、「<u>清原っ子家庭学習の約束</u>」を通じて保護者と情報を共有し、家庭学習の啓発を図る。 ②学級で、自主学習のよい取組を紹介し、児童のよさや努力を認めて称賛する機会を積極的に設け、自主学習への意欲付けを図る。 ③学期毎に家庭学習週間を設け、家庭での学習習慣の定着を図る。 ④個人用PCを活用して個に応じた指導を実践し、基礎的な知識及び技能の定着を図る。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答は 82.6%で目標を達成できたが、保護者の肯定的回答は 73.7%と、目標を 6.3 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・授業参観や個人懇談、学習だより、「清原っ子家庭学習の約束」を通じて、引き続き保護者と情報を共有し、協力を得ながら家庭学習の啓発を図っていく。 ・発達段階に応じて自主学習の取組を提示したり、学年だより等でよい取組を広めたりする等、児童のよさや努力を認めて称賛する機会を積極的に設ける。 ・家庭学習がんばり週間を実施し、家庭と連携を取りながら、家庭学習への意欲付けや習慣化を図る。 ・一人一台パソコンやA Iドリルを活用し、個に応じて基礎的な知識及び技能の定着を図る。
	B 2 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、休み時間や放課後などに進んで運動している。」 児童肯定的回答 80%以上	①児童が能力に応じて進んで運動できるような運動機会の工夫や拡充・日常化に努める。 ②各種検定（水泳・鉄棒・なわとび）の実施や「<u>うつのみや元気っ子プロジェクト</u>」のミニマム達成を目指した<u>体育の授業実践、検定表の地域学校園での見直し等</u>、連携を図った取組を推進する。 ③ICT機器を活用し、模範的な動きを児童に示すことで分かる授業を展開するとともに、運動への意欲付けを図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は、77.5%であり、昨年度より 4 ポイント増加したが、目標を 2.5 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・休み時間に担任や教職員が一緒に進んで運動をしたり、外遊びを推奨したりして体を動かす楽しさを味わわせる。また、サーキットトレーニングや筋持久的な運動を取り入れ、活動量が多い授業を展開する。 ・各学年の発達段階に応じた内容の検定カードを利用し、児童が自発的に運動に取り組めるようにする。 ・ICT 機器を活用することで、よりよい動きや練習方法を知るきっかけを作り、児童が主体的に学べるようにする。
目指す学校の	A 13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 教職員肯定的回答 95%以上	①児童指導主任や特別支援コーディネーターを中心に、職員会議時の児童に関する情報交換を活用して特別な支援を必要とする児童の実態や支援の手立てについて外部の専門機関との連携を含めて共通理解を図り、組織的な支援に当たる。 ②児童の記録やQ-Uアンケート、ケース会議の内容等を活用し、個に応じた支援の下に分かりやすい授業を展開する。 ③特別支援学級に加え、通常の学級において特別な支援を必要とする児童についても、個別の指導計画を作成し、それに基づいた指導を行う。	A 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 91.7%であり、目標を 3.3 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・児童指導主任や特別支援コーディネーターを中心に組織的な支援を継続していく。 ・学年内で日常的に児童指導面での情報を共有し、児童理解を深める。 ・児童の記録やQ-Uアンケート、ケース会議の内容等を活用し、個別最適な学びが実現できるよう教材研究を行うことで、分かりやすい授業を展開する。 ・個別の指導計画を作成し、それに基づいた指導を継続的に行う。 ・外部の関係機関と連携して外国人児童等の支援を継続する。

姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 児童肯定的回答 90%以上	①いじめは絶対に許されないという考えの下、「清原南小いじめ防止基本方針」に基づいていじめ防止のための組織的・計画的な取組を推進する。 ②いじめアンケートや教育相談を通して、いじめの早期把握に努めるとともに、被害者の立場に立って継続的に関わることにより、確実な解消を目指す。 ③「いじめゼロ集会」や標語募集、関連する道徳の授業の実践等、学校のいじめ未然防止の取組を積極的に発信し、保護者の理解と協力を得られるようにする。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 97.9%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・「清原南小いじめ防止基本方針」に基づいていじめ防止のための組織的・計画的な取組を推進する。 ・定期的に位置付けられたいじめアンケートや教育相談を実施し、組織的にいじめの早期発見・早期対応に努める。 ・児童会主催による「いじめゼロ集会」やスローガン募集、関連する道徳の授業の実践等を通して、学校のいじめ未然防止の取組を積極的に発信し、保護者の理解が得られるようにしていく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切にし、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」 教職員肯定的回答 90%以上	①各種集会や帰りの会等で互いのよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設け、児童の自己肯定感を高める。 ②Q-Uを生かした学級集団の実態把握と分析を行うとともに、教育相談の結果を生かし、学業指導の考えに基づいた、帰属意識と規範意識を高める学級経営を行う。 ③新たな不登校を生まない取組を推進し、スクールカウンセラー等を活用する等児童理解に努めるとともに、保護者と児童の様子についての情報を共有し、共に支援していく関係を構築する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・教育活動全体を通して、児童の自己肯定感を高める場を積極的に設定する。 ・Q-Uを生かした学級集団の実態把握と分析を行うとともに、教育相談の結果を生かした学級経営を行う。 ・外部機関との連携やスクールカウンセラー等を活用しながら児童理解に努めるとともに、保護者と情報を共有し、共に支援していく関係を構築していく。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 教職員肯定的回答 90%以上	①情報交換により児童の実態把握に努め、特別な支援が必要な児童の共通理解を図りながら児童のニーズに応じた適切な支援を行う。 ②研修や教育支援委員会を通して、適切な支援の方針について知識や理解を深め、関係諸機関と連携しながら組織的な指導体制を構築する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は、91.7%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・今年度と同様、情報交換により児童の実態把握に努め、全職員で共通理解を図りながら児童が安心して学校生活を送る上で必要な支援を行う。 ・研修や校内支援委員会を通して、適切な支援ができるように努める。また、関係諸機関と連携しながら組織的な指導体制を構築する。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」 児童肯定的回答 90%以上 保護者肯定的回答 85%以上	①担当清掃場所の清掃手順を整理し、役割分担と道具の扱い方を徹底する等、学校全体で清掃活動の充実を図ることにより、明るくきれいな学校づくりに努める。 ②教育相談や日常の個別指導などを継続して行い、よりよい人間関係の構築に努める。 ③今年度実施した行事等の反省を生かし、児童主体の活動が推進できるよう改善と工夫を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 87.7%であり、目標を 2.3 ポイント下回った。保護者の肯定的回答は 93.1%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・担当清掃場所の清掃手順を整理し、役割分担と道具の扱い方を徹底する等、学校全体で清掃活動の充実を図ることにより、明るくきれいな学校づくりに努める。 ・教育相談や日常の個別指導などを継続して行ったり、学年・学級経営の充実を図ったりすることで、よりよい人間関係の構築に努める。 ・今年度実施した行事等の反省を生かし、児童主体の活動が推進できるよう改善と工夫を図る。

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。」 児童肯定的回答 90%以上 保護者肯定的回答 80%以上	①児童に育成を目指す資質・能力を明確にし、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、児童が達成感を得られるような「分かる授業」の実践に努める。 ②発達段階に応じた学び合いの形態を工夫するとともに、児童の実態に即した適切な指導ができるよう教材研究に努める。 ③本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組むことができるような授業を工夫する。 ④学習の終末にねらいに即した振り返りを行い、自己の学習状況を振り返って自分の成長を実感させるとともに、次時の課題を明確にし、学習意欲の向上を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 96.0%、保護者の肯定的回答は 88.1%と、ともに目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・一人一台パソコンなどのＩＣＴ機器の効果的な活用や積極的な授業公開、校内研修を通じ、授業改善や教員の資質・能力の向上を図り、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業の展開に努める。 ・本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組んだり、学習の終末に振り返りを行うことで、自己の学習状況を振り返って自分の成長を実感させたりしながら、次時への学習意欲の向上を図る。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 教職員肯定的回答 90%以上	①全職員が学校経営方針や学校課題を理解し、それぞれの役割を果たしながら協働的に取り組むことにより教育目標の達成を目指す。 ②教育活動全体を通して積極的に関わることで同僚性を発揮し、互いの持ち味が活かせる「チーム学校」を構築する。 ③報告・連絡・相談を徹底するとともに、学年主任会や学年会で連携を図りながら学校全体で情報を共有し、組織的に対応に当たる。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.8%であり、高い達成率であった。 【次年度の方針】 ・全職員が学校経営方針や学校課題を理解し、それぞれの役割を果たしながら協働的に取り組むことにより教育目標の達成を目指す。 ・教育活動全体を通して積極的に関わることで同僚性を発揮し、互いの持ち味が活かせる「チーム学校」を構築する。 ・報告・連絡・相談を徹底するとともに、学年主任会や学年会で連携を図りながら学校全体で情報を共有し、組織的に対応に当たる。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 教職員肯定的回答 70%以上	①教職員一人一人が勤務時間を意識し、業務の効率化に努めるとともに、休暇等を取得しやすい勤務状況を構築する。 ②校務分掌や学年・ブロック単位の組織で、業務の精選を行うとともに、ミライムや学習情報システム等のネットワークソフトウェアを活用し、業務の軽減や効率化を図る。 ③先に退勤する抵抗感を低減するため、リフレッシュデーを一人一人が異なる日に設定できるようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 75.0%であり、昨年度より 25 ポイント上回り、高い伸び率であった。 【次年度の方針】 ・教職員一人一人が勤務時間を意識し、計画的に業務の効率化に努めるとともに、休暇等を取得しやすい勤務状況を構築する。 ・校務分掌や学年・ブロック単位の組織で、業務の精選を行うとともに、ミライムや学習情報システム等のネットワークソフトウェアを活用し、業務の軽減や効率化を図る。 ・業務の効率化につながるよう、計画的にリフレッシュデーを設定する。

A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 「学校は、「小中一貫・地域学校園」の取組を行っている。」 教職員肯定的回答 90%以上 児童肯定的回答 80%以上	①<u>清原地域学校園教育ビジョンに基づき、人との豊かな関わりを通して自らを見つめ直し、主体的に取り組む児童生徒の育成を重点として小中一貫教育を実践する。</u> ②各校の効率的な学校運営を支援するため、学校一人配置職員の連携を密にし、協働体制を構築する。 ③<u>学校園の各部会・分科会での研修や情報交換等を通して、清原地域学校園としての学習面や児童生徒指導面での向上を図るとともに、実践の様子をホームページや各種たよりで発信し、周知に努める。</u>	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.8%であり、高い達成率であった。児童の肯定的回答は 80.2%であり、昨年度より 8.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・清原地域学校園教育ビジョンに基づき、人との豊かな関わりを通して自らを見つめ直し、主体的に取り組む児童生徒の育成を重点として小中一貫教育を実践する。 ・各校の効率的な学校運営を支援するため、学校一人配置職員の連携を密にし、協働体制を構築する。 ・学校園の各部会・分科会での研修や情報交換等を通して、清原地域学校園としての学習面や児童生徒指導面での向上を図るとともに、実践の様子をホームページや各種たよりで発信し、周知に努める。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 保護者肯定的回答 85%以上	①各教科・領域において地域の教育資源や資料等を積極的に活用し、地域の良さを理解するとともに、誇りある地域の一員としての自覚を養う。 ②<u>地域協議会や清原地域学校園と連携を図り、外部人材の活用を推進するとともに、協働して教育目標の達成を目指す。</u>	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 89.6%であり、目標を 4.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・各教科・領域において地域の教育資源や資料等を積極的に活用する。 ・学習や学校行事等を通して、地域のよさを理解するとともに、誇りある地域の一員としての自覚を育てる。 ・地域協議会や清原地域学校園と連携を図り、外部人材の活用を推進するとともに、協働して教育目標の達成を目指す。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 地域肯定的回答 85%以上	①地域協議会を中心に地域と学校が目標を共有し、一体となって教育活動や環境整備の充実を図る。 ②地域や企業との関りを保ち、I C T機器を活用して取り組む等、取組内容や方法を工夫しながら実践するとともに、その活動の様子をホームページや各種たよりで発信し、保護者・地域の学校教育への理解と協力を得られるようにする。 ③地域クリーン作戦や感謝の会、見守り立哨指導等の実施により、児童の望ましい成長を図る。	【達成状況】 地域の肯定的回答は 100%であり、高い達成率であった。 【次年度の方針】 ・地域協議会を中心に地域と学校が目標を共有し、一体となって教育活動や環境整備の充実を図る。 ・地域や企業との関りを保ち、I C T機器を活用して取り組む等、取組内容や方法を工夫しながら実践するとともに、その活動の様子をホームページや各種たよりで発信し、保護者・地域の学校教育への理解と協力を得られるようにする。 ・地域クリーン作戦や感謝の会、登下校指導の実施により、児童の望ましい成長を図る。

	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 教職員肯定的回答 95%以上 保護者肯定的回答 85%以上	①月に一度の全教職員による安全点検並びに生活当番の巡視の機会等を利用した日常的点検を充実させ、危険個所の迅速な対応に努める。 ②危機管理マニュアルを全体で確認し、避難訓練や引渡し訓練等を通して不測の事態への対応に備える。また、児童自らが危険を予測し回避するなど、命を守るための行動力を育成する。 ③新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた校内整備と自発的な予防に向けた啓発に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答が 95.8%、保護者の肯定的回答が 93.1%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・今年度同様、月に一度の全教職員による安全点検を行い、危険個所の迅速な発見・対応に努める。 ・危機管理マニュアルを熟知し、避難訓練や引渡し訓練等を通して、その場の状況に応じて危機を予測し、適切に判断し行動できる児童の育成に努める。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた校内整備と自発的な予防に向けた実践に取り組む。
	A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 児童肯定的回答 90%以上	①図書選定委員会を開催したり、学校図書館司書業務と連携したりする等、年間を通じて計画的に図書資料を学習資料として活用できる環境を整備する。 ②教職員が、授業で効果的に I C T 機器を活用できるよう、I C T 支援員と連携した校内研修等を実施して教職員の技能向上を図り、児童が I C T 機器に慣れ親しみ、適切に活用できるようにしていく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 90.3%であり、高い達成率であった。 【次年度の方針】 ・図書選定委員会を開催したり、学校図書館司書業務と連携したりする等、年間を通じて計画的に図書資料を学習資料として活用できる環境を整備する。 ・児童が I C T 機器に慣れ親しみ適切に活用できるよう、積極的に I C T 支援員を授業で活用したり、校内研修等を実施したりして教職員の技能向上を図る。
	B3 教師の授業力を高めるため、互いに授業を公開し、教師としての資質・能力の向上に努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、校内研修を通して学び合い、自らの指導に生かしている。」 教職員肯定的回答 90%以上	①学校課題における研究の方針を提示し、育てたい児童像を明確にするとともに、それぞれの教職員の専門性を取り入れて考えを深め合えるような校内研修や授業研究会を推進する。 ②研修や研究会のみならず、ブロックや学年内における話し合いの場を多くもつことで OJT を活性化し、同僚性を高める。 ③社会情勢を踏まえ、<u>地域学校園と適切に連携を図りながら研修を推進する。</u>	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.8%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・今年度、学校課題を「主体的・対話的な学習に取り組む授業の工夫～I C T等の活用を通して～」と設定し、校内研修や授業研究を行った。そこで得た成果を基に、次年度は、教職員の専門性を活かしながら、考えを深め合えるような校内研修や授業研究を推進していく。 ・ブロックや学年内における話し合いの場を多くもつことで OJT を活性化し、互いを高め合える学校風土を醸成していく。 ・次年度も継続して、地域学校園と適切に連携を図りながら研修を推進していく。
本校の特色・課題等	B4 本や地域、友達とのふれあいを通して人間関係を深め、心の豊かな児童を育成している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、読み聞かせ・農園活動・登下校の見守りの時など地域の方とふれあうことは楽しい。」 児童肯定的回答 80%以上	①学級文庫を新しく入れ替える等、読書の質を高めたり、図書室の「情報センター」としての機能を活用したりすることで、本とのふれあいを促進する。 ②感染症対策を講じながら、<u>あいさつ運動や米作り体験、水辺の楽校体験等の体験農業活動を通して地域とふれあい、地域のよさを理解するとともに、誇りある地域の一員としての自覚を養う。</u> ③感染症拡大防止を踏まえ、縦割り班活動や学校行事の内容を再検討し、児童同士の関わりを大切にしながら思いやりの心や協調性を育む。 ④地域協議会と連携して学習ボランティアを充実させ、教育活動を豊かなものにする。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 87.1%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・図書館情報部会の公開研究会に向けて築いてきた学校図書館の「情報センター」「学習センター」としての機能を活用することで、本とのふれあいを促進していく。 ・体験活動を通して地域の人々や自然とふれあい、地域のよさを理解するとともに、誇りある地域の一員としての自覚を養えるようにしていく。 ・縦割り班活動や学校行事の内容を、可能な限り児童同士の関わりを大切にしたい取組になるよう再検討し、思いやりの心や協調性を育む。 ・地域協議会と連携して学習ボランティアの活用を図り、教育活動を豊かなものにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

昨年度同様、新型コロナウイルス感染症対策を継続しつつ、教育活動の規模縮小・実施方法の改善等を検討し、できる限り教育活動の実施並びに保護者・地域への公開を行った。公開の機会を設けたことで、全設問の地域肯定的回答が昨年度を上回る結果が得られた。

【学校運営】

・A17「学校全体に活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である」の評価指標については、概ね良好な結果であるが、児童の目標値には達しておらず達成状況が不十分であった。来年度の方針として、教育相談や日常の個別指導、学年・学級経営をさらに充実させていくことで、よりよい人間関係の構築を図っていく。

・A19「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して取り組んでいる」の評価指標については高い達成率となった。今後も引き続き協力して業務に取り組んでいく。

・A20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」の評価指標は昨年度から25ポイント向上しており、時間への意識の向上や業務の効率化などの取組が徐々に効果をあげている。しかし、十分な達成率ではないので、今後も引き続き勤務時間を意識した業務の効率化に取り組んでいく。

○A21「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」の評価指標については、肯定率100%となっており、高い達成率であった。今後も業務の精選と効率化を進めていく。

・A22・A23「学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している」の評価指標は、高い達成率であった。今後も地域の人材を活用したり、実践をホームページ等で発信したりするなど、連携を意識した教育活動を推進していく。

・A25「児童生徒はICT機器や図書等を学習に活用している」は、児童も保護者も目標達成している。次年度についても研修や児童への指導を充実させ、学習への活用の仕方の幅を広げられるようにしていく。

【学習指導】

○A8「児童は、外国語（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」では、目標指数を達成することができなかった。高学年は外国語科となり、学習内容も難しく、「聞く・読む・書く」を意識した授業の展開が必要となってくる。そこで、段階的に外国語に親しみをもてるよう、中学年児童のローマ字指導を丁寧に行い、高学年の外国語科につながるようにしていく。併せて、積極的なALTの活用推進と、学級担任の英語のスキル向上を図り、児童との英語のやり取りを中心とした授業が展開できるようにしていく。また、一人一台パソコンをツールとして活用し、イラストや写真を添えたりする等の理解を促す手立てを講じることで、英語によるやり取りができるよう活動を工夫していくとともに、英語に慣れ親しみ、進んで英語を使おうとする態度を養えるようにしていく。

・B1「児童は、宿題や自主学習をすることが習慣化されている」では、児童の達成状況は昨年度同様の数値であったが、保護者の数値が6.3ポイント下がり、目標指数に到達できなかった。今後は、家庭との連携を更に深め、授業参観や個人懇談、学習日より、「清原っ子家庭学習の約束」等で、家庭学習の大切さについて啓発を図るとともに、「家庭学習がんばり週間」を実施して、習慣化に向けた取組を進めていきたい。また、一人一台パソコンやAIドリルを活用する等、個に応じた支援を行うことで、知識・技能の定着を図ったり、発達段階に応じた自主学習の学習内容を提示して家庭学習の充実に取り組んだりしていく。併せて、児童のよさや努力を認めて称賛する機会を積極的に設け、意欲付けを図っていきたい。

・A18「教職員は分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」では、児童、保護者ともに肯定的回答が目標指数を超え、どちらも昨年度より数値が上がった。今後も、積極的な授業公開や校内研修を通じて教職員が互いに学び合い、授業力向上に努めていきたい。一方、ICT機器や図書資料等の活用については、児童の肯定的回答は昨年度同様の数値であったものの、保護者の肯定的回答は79.8%と、昨年度より4.5ポイント下回った。教職員の技能向上を図ることで、一人一台パソコンの効果的な活用を進め、「個別最適学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的な学び」の実現に向けた授業の改善に取り組んでいく。

【児童生徒指導】

・A13「教職員は特別な支援を必要とする児童生徒や外国人児童等の実態に応じて適切な支援をしている」の肯定的回答は、91.7%であり、目標を3.3ポイント下回った。昨年度の数値と比べて4.1ポイント減少している。これについては、「次年度の方針」に沿った取組を行っているが、より対象児童の実態に即した支援をしていく必要がある。SCによる個別の支援計画の検証を要望していく。

・A14「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」では、定期的に位置付けられたいじめアンケートや教育相談を実施し、組織的にいじめの早期発見・早期対応に努めている。いじめの把握をした際に、対象児童に対し丁寧な聞き取りを行い、問題の解決や精神的なケアを行ってきた。今後も、該当児童の担任だけでなく、組織的な対応を推進し、問題の解決率100%を目指していく。

【健康（体力・保健・食・安全）】

・B2「児童は、進んで運動する習慣を身に付けている」の肯定的回答は77.5%であり、目標を2.5ポイント下回った。しかし、昨年度と比べ4ポイント増加していることから取組は効果的であったと考えられる。次年度以降については、今年度の取組を確実に実施するだけでなく、発達段階に合った検定表を活用したり、ICT機器を使った授業を展開したりする等、児童が主体的に運動に取り組むことができるよう指導・支援していく必要がある。

7 学校関係者評価

【学校運営】

・コロナ禍の影響で学校内の活動自粛やマスクで表情が分からない等、児童の活気がないと感じる点もあるが、全体的には目標達成ができており、素晴らしい。地域住民と連携を密にし、学校行事等少しずつ拡大できていることもよい。

・児童、教職員共により人間関係が築かれていることで、学校全体に活気があり、生き生きとした雰囲気である。また、挨拶も元気よくできるようになってきた。子供たちがよい環境で学校生活を送れていると感じ、先生方に感謝している。

・教職員の勤務時間の課題については、肯定的回答が大幅にアップし、保護者としてもうれしい。100%を目指して改善を図れば、学校全体や児童にもよい影響があると考えます。

【学習指導】

・個に応じた指導がなされていると、授業参観時に感じた。

・A8「児童は、外国語（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」では、一朝一夕には難しく、きっかけづくりや興味付けが大切なのではないか。B1の家庭学習と関連付ける等、英語が身近なものになるとよい。

・ICT機器に慣れ親しむことで得る情報も多く、授業内で取り組んでいることは素晴らしいと思うが、情報リテラシーへの理解や学習内容の習熟については、児童の個人差が大きいと感じる。

・タブレットの利便性や学習効果は認めるが、教科書での学習のよさもある。タブレット学習に気を取られている流れがあり、懸念する。教科書の持ち帰りも、大切なのではないか。

・宇都宮学は効果があり、今までと違う宇都宮を知るよい機会である。

・教職員と児童との肯定的回答の数値の差は、考えていく必要がある。

・学習も大切であるが、積極的に運動に取り組む児童を育てほしい。

・家庭学習の定着においては個人差があり、少しずつでも習慣化されるとよい。先生方がどのような声掛けをしているのかを参考にしたい。

【児童指導】

・常日頃児童に接しており、規範意識が高いと感じる。

・立哨指導をしていると、児童から「ご苦労様です。」「お体に気を付けて。」と言葉を掛けられた。また、学校教育の指導のよさが、そのまま地域に返され、登下校時にきちんと整列して歩いている姿が見られる。その反面、高学年ほど、挨拶の個人差は大きいと感じる。

・B4「地域と触れ合うことは楽しい」と思ってくれる児童がもっと増えるよう、読み聞かせ等を今後も行っていきたい。また、地域活動としての農業体験は保護者にとってもありがたく、祖父母が参加する「昔遊び」等の再開を期待している。併せて、積極的な自治会行事への参加を望む。

・いじめに対し、学校主導で様々な指導が行われており、日常的に児童を見守る体制づくりに感謝している。

・個を活かす指導の下で、集団行動ができると更によいと考える。

【健康体力】

・先生と一緒に遊ぶロング昼休みを楽しみにしており、学校での体育の学習や運動遊びが家庭での運動機会につながっている。また来校時、校庭で遊ぶ児童が増えてきたように感じる。感染防止に努めながらの指導を、今後も継続してほしい。

・発達段階に応じた検定カード等の取組が面白い。様々な運動に取り組ませることが、必要である。

・B2「児童は、進んで運動する習慣を身に付けている」の保護者の肯定的回答が低いのは、家庭内でも子供たちの運動する機会が少なく、体力的に弱いと感じているからではないか。運動に親しむ環境づくりができるよう、自治会としても応援していきたい。

・行動する前に諦めてしまう傾向があると感じる。何事も「まずはやってみる」という声掛けをお願いしたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

コロナ禍の中、今年度は行事縮減や方法を検討し、教育活動を徐々に再開することができた。コロナ前と比較すると十分とは言えないが、学校として限られた機会を逃さずに校外学習や授業参観等を実施したことが結果的に活動の充実につながり、教育活動を知る機会が少ない分、コロナ禍の中で工夫した取組が保護者に学校の努力として評価されたなど、苦しい中でも地道に取り組んできたことが適切に判断されたのではないかとと思われる。

保護者の学校教育活動への評価は昨年と比べて若干の向上が見られ、7割の項目で市の肯定的回答を上回る結果となった。一方、地域住民の学校教育活動への評価は昨年と比べて、どの項目も市の肯定的回答を上回る結果となった。

次年度に向けては、以下について取り組んでいきたい。

- ・ 今年度、県より指定を受けて「働き方改革推進モデル校」として様々な取組を行ってきた。教職員一人一人が勤務時間を意識した働き方を実践すべく、チームとして業務の効率化に努めてきた結果、職員の肯定的回答は市の平均と同等までに向上した。次年度においても、子供と向き合う時間を確保するため、県の好事例として発表した本校の取組を継続実践し、更なる働き方改革の推進に取り組んでいきたい。
- ・ 図書館情報教育の研究実績並びに読み聞かせボランティア「南風」の活動実績が評価され、今年度「文部科学大臣賞」を受賞した。しかし同じ情報教育の中で、ICT機器の活用については教職員や保護者の肯定的回答が市の平均を下回る結果となっており課題が残った。次年度は、ICT支援員と連携した校内研修等を実施して教職員の技能向上を図り、児童がICT機器に慣れ親しみ、適切に活用できるよう授業実践を積み重ねていきたい。
- ・ 「宇都宮のよさ」や「持続可能な社会」への関心については、児童の肯定的回答がいずれも市の平均を上回っているのに対し、教職員の肯定的回答がいずれも10ポイント以上下回った。校内研修等を通して、教職員の「持続可能な社会」への認識を高め、全教育活動において命やものを大切にする意識を育み、児童の「持続可能な社会」への実践力を養っていきたい。
- ・ 今年度も地域に対して公開する学校行事や授業参観の機会が乏しく、学校の様子が分からず評価の判断ができないという意見があった。学校ホームページや各種たよりの一層の充実を図り、学校行事だけでなく日々の教育活動においても積極的に情報を発信していくことで、本校の教育目標や教育活動を家庭や地域に理解してもらい、連携・協働を進めていきたい。